

# 令和6年度第2回大府市ひきこもり支援地域協議会議事録

(要点記録)

開催日時：令和6年11月21日(木) 午後3時30分～午後5時00分

開催場所：大府市役所 全員協議会室

## 出席者 ※敬称略

岐阜協立大学	山田 武司
特定医療法人共和会 共和病院	來多 泰明
大府商工会議所	神谷 恵美子
刈谷公共職業安定所	大久保 みどり
愛知県立大府東高等学校	社本 このみ
社会福祉法人 憩の郷	
地域活動支援センターおおぶ	杉原 直樹
大府市障がい者相談支援センター	竹内 美喜
ちた地域若者サポートステーション	井戸 千尋
大府市民生児童委員協議会	大橋 房代

## 欠席者 ※敬称略

ひきこもり支援活動者	外波 祐二
愛知県知多福祉相談センター	南山 安澄
愛知県知多保健所	山崎 あゆみ
	(代理：坂根 聡子)

## 事務局

福祉部	猪飼 健祐
// 福祉総合相談室	小清水 崇
//	杉浦 英憲
// 地域福祉課	山本 真嗣
健康未来部子ども若者女性課	
ニュージェネ&女性係	吉村 隆汰
// 健康増進課	北川 美香
教育委員会	
教育支援センターレインボーハウス	蟹江 修

傍聴者 2名

## 議事内容

### 1 あいさつ

—会長挨拶—

### 2 議題

#### (1) 参加支援事業に関するアンケート調査について

—資料No.1に基づき事務局より説明—

—質疑

【委員】回答対象者について、本人及び家族両方から回答をもらえそうな倍には、両方から回収しても構わないか。

【事務局】より多くの方の意見を取り入れるため、この場合両方からの回答を回収する方向で考えている。

【委員】問8（今後参加したいと思う活動や機会について）で、「希望なし」の選択肢にその理由を加えてはどうか？

【委員】希望が無い理由を加えることとする。

【委員】たとえ回答が期待できないとしても、長期欠席やひきこもっているかなと思われる方にこういうアンケートを送ることで、市として、そういう方たちのことを気にかけたい、またこれから何かしたいと思っていることが伝わると思うので、送ってみるのも良いのではないか。

問8について、対面で参加するものというイメージがあるが、対面は無理でも、メタバース空間みたいな、ネットを通じての交流する機会に参加できるっていう人もいると思うので、選択肢に入れられないか。

問9と問12の選択肢に、「その他」を加えても良いのではないか

【事務局】郵送等を通じての手段についてはまた教育委員会等と調整し、実施に向けて、内部で検討していきたい。

問9以降のその他の設問の選択肢については、意見を受けて盛り込んでいこうと考える。

メタバースの導入については、この手法であれば参加してみたいと考える人にとってはつながる手段と成り得るため、項目に加えることを検討する。

【委員】回答対象者のうち、生活保護を受けている中の8050でよくひきこもっている方が多くいると聞いているので、生活保護受給者の中でアンケートがとれるといいのではないかなと思う。あとアンケートの問3のところで最近の方たちは、SNSとか配信とかそういうものすごくマース社会とつながる手段として興味を持たれる方が多いので、SNSとかインターネットというものも入れても良いと思う。

【事務局】ひきこもり支援と生活保護担当部署が同じ部内にあることから、調

整を図りながら、必要に応じて声かけていくことはできると考える。

【委員】問3で、当事者が設問を見た時に、「キ」しか該当が無いので、動画配信・鑑賞等の項目を設けると自分たちに問われている印象を受けると思う。

【委員】問2の年代区分の10代について、10歳と19歳は幅が広過ぎるため、10代前半、代後半と分けたりとか、小学生、中学生、高校生以上と分けたりだとすると、対象者の方をつかみやすいと考える。

【委員】アンケート協力依頼の文書の文面が固い印象を受けるので、かみ砕いた言い回しとし、かつ読み手が読みやすい簡単な物にした方が良い。年代について、本人だけでなく家族の年齢も把握出来る様にした方が良い。

【事務局】本人の年代は現状のとおりし、家族の場合は同じように家族の年代というような形で、年齢層の選択肢の設問を加えてこととする。

【委員】問6に関して、現在利用している公的サービス施設について、聞いていてですね、問8で、今後参加したい活動・機会を聞いているが、本当は施設等に行きたいなと思いつつも、なかなか一歩踏み出せない方もいると思うので、利用したいという選択肢もつくれると良いと思う。

【委員】問6の設問をもしその「利用している」を「利用したい」に変えたときに、ひきこもり状態にある方に各施設等を理解してもらうために、選択肢の横にQRコードを横に添付することを提案する。

## (2) 潜在的ニーズの掘り起こしについて —資料No.2に基づき事務局より説明—

### —質疑

【委員】資料にある内閣府の調査が、最新版で令和4年度版が出ていて、ひきこもりの全数がもう今146万人となっているほか、出現率の15歳から39歳が2.05パーセント、40歳から64歳が2.02パーセントであり15歳から39歳は推計で564人、40歳以降が635人ということで、1,000人超えとなる。

あと、現場で感じていることが、ひきこもりの方とか不登校の子、長期欠席のたちに共通して思うのは、自ら関係を切っていく人も居るのが特徴。

これが良い悪いとかではなくて、例えば相談をしても、キャンセルとかが続いていつの間にか見えなくなることがざらにあり、こういうことも難しくしていると感じる。

【委員】関係性っていうのは、切ってきたけれどもやっと動き出したよっていう感じの人が所属先には多く来ている。なので、今おられた状態でほぼ友達いない状態の方が8割以上いる感覚。

その理由は、関係性が悪化したっていうのもあるが、自分の現状が恥ずかしく話せない、今何やっているのと聞かれても、答えられない。

友達を思うからこそ、自分が申し訳ないって気持ちになって逆にうちに閉じこもってってしまうっていうパターンも多くある。

【委員】以前ひきこもり研修会を聞き、家で漫画描いて、先生に褒められたことによって、今漫画家なられたっていうので、何かのきっかけで社会に出てくれるっていういいお話だった。

先日仕事の関係者が民間の施設として、ひきこもりの施設を立ち上げた話を聞いた。そこでは

e スポーツをしてグループで戦略を練ってみんなにつながり感が出て、オンライン参加で参加していた方も、施設へ出てくるようになったと言っていた。

【委員】これまでに関わったケースで両親が例えばアルコール依存症で、そこに年齢のいったお子さんがいると話を聞くと、何十年もひきこもっていたというケースがある。

あと精神障害を抱えている両親だとなかなかお子さんの養育まで回らず、ひきこもっているっていうことがよく見受けられると感じる。

【委員】スクールソーシャルワーカーが今大府市に2名いるが、相談件数も非常に増えていて、増やしたほうが良いのではないかなと個人的に思っている。

学校卒業後の潜在的卒業後、いわゆる潜在的ニーズの対象者にならないためにも、小・中学校のうちに不安だと思ふ子たちや学校に来られてない子たちを、スクールソーシャルワーカーがサポート、していくことで、その後のひきこもりになるような状況から少しでも減らせるのではないかなと思う。

スクールソーシャルワーカーは4中学校各1人ぐらいというか、今の2人では今後補えなくなるときが来るのではないかなと、思っている。

【委員】知多管内で、スクールソーシャルワーカーとコミュニティーソーシャルワーカーがかなり連携をされている地域がある。

社会福祉協議会さんで高齢者部門の方と、障害者の部門の方等みたいな形で役割が分かれていると思うが、高齢者の部門の方には70、80代の高齢の方のところに行く人で、そういう情報をお願いしておいて、確認をとる個人書面により共有する許可をもらう。

その後会議等でこういうところで協議し、うちだったらこれをやる、うちだとこれできる、という様に情報あるともっと早く、きっかけづくりができないかなと思った。コミュニティーソーシャルワーカーがあまりこの会議に参加していることが少ないのが不思議だった。

【事務局】大府市では、コミュニティーソーシャルワーカーについては、ひきこもりの事務局を担当する福祉総合相談室が、組織として担うということに対応している。

3 情報交換  
—なし—

4 その他  
第3回会議を、令和7年2月18日（火） 15：30から 大府市役所全員  
協議会室で開催する予定

以上